


① 申請者	上田市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	れいらんがつなぐ「たいようとだいちのせいち」 ～りゅうといきるまち しんしゅううえだ・しおだいら～		
<p>レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」</p> <p>～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～</p>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>独鈷山と夫神岳から扇状に開ける地・塩田平は、古来「聖地」として、多くの神社仏閣が建てられている。</p> <p>山のふもとにある信州最古の温泉といわれる別所温泉、「国土・大地」を御神体とする「生島足島神社」、「大日如来・太陽」を安置する「信濃国分寺」は、1本の直線状に配置され、レイラインをつないでいる。</p> <p>夏至と冬至に、鳥居の中を太陽の光が通り抜け、神々しくぬくもりのある輝きを享受できるのだ。</p> <p>先人たちが、この地が特別であると後世に伝えようと遺した様々な仕掛けは、今も、訪れる人びとにパワーをチャージさせる。</p>			

## ストーリー

## 「信州の学海」

上田は、険しい山々に囲まれた盆地ゆえに、本州では一番雨の少ない地だ。「おてんとうさま」が毎日のように微笑み、穏やかな気候という特徴は、信濃国分寺が置かれたこと、鎌倉北条氏の一派が終の棲家としてここを選んだ理由でもある。

塩田平には数多くの寺社が建てられ、中国の高僧や多くの学僧が訪れたのは、山を背に構える別所温泉があったことが大きい。豊かな湯で心まで洗われる温泉の楽しみがあったからこそ、僧たちは、この地を訪れたのであろう。

別所温泉にある安楽寺を訪れてみると、薄暗い木立の中、見上げるように階段を登った先に、日本唯一の木造八角三重塔が目飛び込んでくる。微かな光の方向に仰ぎ見る屋根裏の華やかな木組みは、私たちを自ずと厳かな気持ちにさせてくれる。しかも「四重塔」にも見える不思議な形だ。

また、北向観音堂は、善光寺と「両参り」とすると御利益が増すという。境内の手水

(ちょうず)までも温泉を使い、湯煙が立ち上る境内には温泉の匂いが漂う。見晴台に立つと、塩田平から市街地までを見渡せ、我はこの地に降り立ったのだ、という気持ちにさせられる。この地が僧たちにとって「特別な場所」であり、「別所」と名付けられたことも納得できる。湯煙が漂う地に花開いた仏教文化の遺産は、湯浴みの効能のみならず、訪れる人びとを癒している。

## 神宿る「山」への祈り

上田の雨が少ない気候は、風雨が引き起こす災いからこの地の暮らしを守ってきた。しかし、それゆえに神は時として干害などの試練を課してきた。人びとは水源となる山々に神を崇め、祈り、恵みの雨を願った。

500年以上も続く雨乞いのまつりである「岳の幟(たけののぼり)」は、色鮮やかな幟が特徴的だ。「下り龍」を描いた幟で、夫神岳山頂に祀られた「龍”オカミ”」と呼ばれる九頭龍神を山麓の別所神社まで

お連れする。龍をかたどったたくさんの幟を迎えるのは、三頭獅子とささら踊りの子どもたち。カラフルな幟と衣装が鮮やかに映え、山間に歌声と太鼓の音が響くころには、本当に、龍からの雨に



恵まれる。

山には、古より受け継がれてきた水への憧れと神への畏怖が投影される。龍が宿るこの山は、山菜や松茸など、山の幸をはぐくみ、マツタケ小屋の隆盛につながっている。

祈りの言葉は「アメ フラセタンマイナ」

塩田平はため池を造って水を蓄え、ここで温めた水を田んぼに入れて稲の生長を促し、「塩田三万石」と呼ばれる上田随一の穀倉地帯へと変身した。ため池でも「百八手」と呼ぶ雨乞いのまつりが行われる。池の周りを大勢で囲んで「たいまつ」に火をつけ、もくもくと上がる煙のなか「アメ フラセタンマイナ」と唱える。ため池は稲穂をはぐくむだけでなく、マダラヤンマなどの命もつないできた。人柱やカップなどの伝説は、ため池にも神を崇めていたことをうかがわせる。

雨を願う人びとは、時に荒療治として路傍のお地蔵様を川へ放り込んだ。ここでも祈りの言葉は「アメ フラセタンマイナ」。お地蔵様を怒らせてでも、龍（雨）との再会を願っていた。

独鈷山と夫神岳、そして麓の寺社は、常に塩田平の人びとの暮らしに寄り添ってきた。そして、路傍のお地蔵様は、また川に投げ込まれないかと心配して、今日も雨雲を待ちながら空を見上げている。これが「山に神、野に仏」とも言うべき、上田の人びとがつかないできた「祈りのかたち」だ。

未来への懸け橋

このように塩田平には、この地を特別な「聖地」とする景観が遺されている。国土・大地を祀る「生島足島神社」、「大日如来・太陽」が安置された「信濃国分寺」。生島足島神社は夏至には太陽が東の鳥居の真ん中から上がり、冬至には西の鳥居に沈む。太陽と大地は、この神秘的な光景をレイラインとして現代に遺した。

そして、この「太陽と大地の聖地」に重なるように遺したもうひとつの景観が、100年前から守り続けてきた鉄道・別所線だ。生島足島神社から、別所温泉までの軌道は、不思議なことにレイラインと一致する。そして、駅をつなぐ線路は、空からみると龍のかたちをしていると言われる。塩田の人びとは龍を特別な神として崇め、祀り、龍とともに生きてきたことを、別所線の軌道に投影して大切に遺してきたのだ。龍の背に乗ってめぐる「太陽と大地の聖地」は、これからも、まぶしいばかりの輝きとぬくもりをもって、訪れる人の心に光を与えてくれるだろう。



## ストーリーの構成文化財予定一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	あんらくじはっかく 安楽寺八角  さんじゅうのとう 三重塔	国宝	中国から伝わった「禅宗様」で造られた、現存する日本唯一の木造八角三重塔で、長野県の「国宝第一号」。かつては「四重塔」とされたが、現在は一番下の屋根は裳階(ひさし)と解釈されている。禅宗寺院であるにも関わらず一層内部に大日如来像が安置されており、太陽信仰との関連をうかがわせる。 創建は1290年代とされ、八角形のどっしりとした落ち着きがある塔で、頂上には相輪が青天高くそびえている。屋根の下の華やかな木組みも相まって、安定感と崇高美、華麗さを兼ね備えた、天下の名塔である。	
2	もくぞういせんおしろう 木造惟仙和尚  ざぞう もくぞうえにん 坐像・木造恵仁  おしろうざぞう 和尚坐像	国重文	安楽寺の創立は慈覚大師ともいい、宗派は天台あるいは律宗とも考えられている。その後、信濃出身の僧・樵谷惟仙が臨濟寺院として中興開山した(現在は曹洞宗)。境内の伝芳堂に、惟仙と開山二世幼牛恵仁の等身大の僧侶の椅像「頂相」が並んで祀られている。没後、弟子たちがその徳を慕い造立したもので、安楽寺が鎌倉と同水準の禅宗文化を受容し、「信州の学海」として、修行僧を多数輩出していたことがうかがえる。	
3	じょうらくじほんどう 常楽寺本堂	市建造物	天台宗別格本山。平安時代初めに慈覚大師が開創と伝え、樵谷惟仙をはじめ、多くの青年僧が学んだ「信州の学海」を支えた寺院として名高い。 本堂は寄棟造、茅葺の建物で、江戸時代中期後半の建築で、本尊は大日如来の五つの智慧を表す五智如来の一尊である妙観察智阿弥陀如来である。	
4	じょうらくじせきぞう 常楽寺石造  たほうとう 多宝塔	国重文	石造多宝塔は弘長2年(1262)の作で、総高274.0cmの重厚で堂々とした風格や造り方は鎌倉期多宝塔の優品。塔が建てられている所は、北向観音の出現地といい、境内でもっとも神聖な場所とされる。 多宝塔は大日如来を具現化したものとされ、太陽信仰の一端をも垣間見ることができる。	
5	きたむきかんのんどう 北向観音堂	未指定 (建造物)	平安時代初期に比叡山延暦寺座主慈覚大師円仁が開いた霊場。北向きの本堂(本尊は千手	

			<p>観音菩薩像)は全国でもほとんど例が無く、南向きの善光寺本堂と相対している。「極楽往生」を願う善光寺と「両参り」し、ここで「現世利益」を祈ることで、御利益があるとされる。かつて参道脇に長楽寺(常楽寺、安楽寺とともに天台宗の「別所三楽寺」のひとつ)があったが、現在は常楽寺を本坊とする。昭和 36 (1961)年に善光寺本堂と同じく、「撞木造り」の建物として増改築された。なお、手水舎には境内から湧出している温泉が使われている。</p>	
6	<p>ぜんこうじじしんえま 善光寺地震絵馬</p>	<p>未指定 (有形民俗文化財)</p>	<p>「善光寺だけでは片参り」のいわれを伝える絵馬。北向観音で厄除札を受けた後、善光寺御開帳に向かった尾張の市之助が、門前宿で弘化 4 (1847)年の善光寺地震に遭遇した際に、北向観音で受けたお札が身代わりになってくれたおかげで、災難を逃れたという伝説を描いている。</p>	
7	<p>あいぜん 愛染カツラ</p> <p>べっしょごぼく (別所五木)</p>	<p>市天然記念物</p> <p>(未指定) (天然記念物)</p>	<p>神仏が姿を現した「影向の桂」といわれる霊木で、目通り幹囲 5.8mの太さがある。ハート形の葉が珍しく、故川口松太郎原作の日活映画『愛染かつら』のモデルとなり、今でも縁結びの霊木として老若男女に親しまれている。別所温泉には他に、北向観音の夫婦杉〈夫婦円満〉、薬師堂のねじり紅葉〈素直な心〉、常楽寺の御船の松〈極楽浄土に導く〉、安楽寺の高野槇〈希望〉の霊木があり、「別所五木」と呼ばれて親しまれている。</p>	
8	<p>まいた せきぞうごりんとう 舞田の石造五輪塔</p>	<p>県宝石造物</p>	<p>五輪塔は、はじめ大日如来を尊ぶことから造られたといい、その後、身分が高い人の供養塔として用いられるようになった。総高 212 cmの鎌倉時代の五輪塔の優品で、塩田平にたくさんある石造文化財の中でもひととき目立つ雄大な塔だ。</p> <p>地輪、水輪、火輪、風輪、空輪からなり、本例は風・空輪が一石で造られている。水輪には梵字「バン」(大日如来)が刻まれている。各部材の様式等からみて、鎌倉初期の建立と推定されている。</p> <p>文治 2 (1186)年この地に金王庵を創建した渋谷土佐入道昌順の墓塔と伝えられている。</p>	
9	<p>ぜんさんじさんじゅうのとう 前山寺三重塔</p>	<p>国重文</p>	<p>前山寺は塩田城の祈願寺と伝えられ、本尊は大日如来。三重塔は室町時代初期の造立とされ、初層と二層に掲げられた大日如来の額で金剛界五仏を表す。二層・三層目の勾欄が未完成であるにも関わらず、何の不調和感もなく、「未</p>	

			完成の完成塔」と絶賛される。荘厳な九輪の下、柿葺きの屋根が重なり合った美しい曲線が四季の山色に映え、その姿は、名塔の誉れを欲しいままにしている。 真言宗の「信濃の四談林」のひとつであり、三楽寺とともに「信州の学海」としての役割を担った。	
10	ちがい石とその 産地	市天然記念物	「ちがい石」は、2つの中性長石がX形に交わって晶出した鉱物で、ここ弘法山でしか産出しない。「誓い石」とも呼ばれ、弘法大師空海が「大切に保持すれば災厄から免れさせる」ことを誓ったという伝説を秘める。	
11	さいこうじあみだどう 西光寺阿弥陀堂	県宝建造物	弘法大師空海が大日如来像・阿弥陀如来像を彫刻し、小堂を建てたのが開創と伝え、鎌倉時代に塩田北条氏が開基となり、足利から実勝和尚を招いて開山とした。阿弥陀堂は室町後期の寄棟造の建物で、飾らない檜皮葺のシルエットが美しい。	
12	ちゅうぜんじやくしどう 中禅寺薬師堂	国重文	約 800 年前の建物と推定される中部日本最古の木造建築で、塩田平に仏教文化が根付いた時期を示すものだ。 宝形造の素朴な茅葺屋根と青空とのコントラストが美しい。薬師如来像を祀る「薬師堂」であるが、「方三間の阿弥陀堂」形式の不思議な建物だ。	
13	ちゅうぜんじもくぞうやくし 中禅寺木造薬師 如来坐像	国重文	薬師堂の本尊で、平安時代後期(藤原期)の「定朝様」に進取の鎌倉様式を取り入れた、いわゆる「藤末鎌初」の仏像。像高は 97.8 cm で、その台座(受座)には流鏑馬を描いた墨書戯画が見られる。塩田平に鎌倉から流入した仏教文化の影響を示す作品である。	

14	ちゅうぜんじもくぞうこんごう 中禅寺木造金剛 りきしぞう 力士像	県宝彫刻	薬師堂仁王門に安置された、平安時代末の信州最古の金剛力士像。寄木造で像高 207 cm のやや小振りの像だ。制作時期は薬師堂本尊とほぼ同じとみられ、この像から、当時、中禅寺が進取の様式により伽藍を整えていたことがうかがえよう。	
15	まえやましおのじんじゃ 前山塩野神社 はいでんおよ ほんでん 拝殿及び本殿	市建造物	「延喜式」等に載る古社で、独鈷山の北麓に鎮座し、かつては山上の鷲岩という巨岩に祀られていたという。 棟札から、拝殿は寛保 3 (1743) 年のものとみられ、二階建ての「楼門造り」という珍しい建物だ。また、本殿は寛延 3 (1750) 年の建築と考えられ、「一間社流れ造り」の様式で、見事な龍の彫刻が目を引く。 神が降る岩「磐座」と境内を流れる塩野川は、異空間に迷い込んだような錯覚を覚えさせる。	
16	ほうじゅうじこくぞうどう 法住寺虚空蔵堂 つけたり ずし 附 厨子	国重文	平安時代に創建されたと伝える天台宗の古刹。独鈷山を主峰とする虚空蔵信仰の山麓寺院（南麓）として捉えられる。堂全体は「和様」で造られているが、懸魚などには「禅宗様」の要素も見られ、室町時代中頃に造られた建物と考えられる。 厨子の時代はお堂と同じ頃と考えられ、方一間入母屋造という禅宗様式独特の方式で造られている。中には虚空蔵菩薩坐像（室町時代・寄木造・像高 45.4 cm）が安置されている。	
17	べつしょおんせん たけ 別所温泉の岳の のぼりぎょうじ 幟行事	国選択無形民俗文化財	永正元 (1504) 年に大旱魃に苦しんだ農民が、雨の神様に貴重な反物をささげて祈ったことが始まりとされ、嘉永 2 (1849) 年「善光寺道名所図会」にも記される雨乞いのまつりである。 本来は 7 月 15 日が祭日であるが、現在はそれに近い日曜日に行く。天に昇る龍を象った幟は、長さ約 6m の青竹竿に赤・青・黄などの色鮮やかな布が取り付けられている。 夫神岳の頂上に祀られた「霨”オカミ”」九頭龍神の祠で住民代表が神事を行った後、降り龍の幟を先頭に 70 本もの幟が山を下る。麓で別所神社の神主総代や三頭獅子とささら踊りの一行と合流して温泉街を一巡する。	

			平成 10 (1998) 年に開催された長野冬季オリンピックの閉会式会場でも披露された。	
18	べつしょじんじやほんでん 別所神社本殿  かぐらでん (神楽殿)  ほんちようえんむすび (本朝縁結 おおかみのほこら 大神祠)	市建造物  (未指 定) 建造物  (未指 定) 建造物	別所温泉の北方、塩田平をはじめ遠く浅間連峰が望める小高い丘にある産土神。岳の幟行事の終着地である。 建物は天明 8 (1788) 年のものと思われ、安楽寺の山門など、塩田平の寺社建築に多くの優れた作品を残した、上田房山の末野一族の手によるもの。 なお、境内の立派な神楽殿や、本殿の背に祀られる「本朝縁結大神」なども貴重な文化財だ。	
19	くら かつ じやくつし 鞍が淵と蛇骨石	未指定 (名勝・ 天然記念 物)	鞍が淵の名は、独鈷山から落下した 2 つの大岩が折り重なって鞍のように見えることが由来だ。岩の間を流れる産川が造る淵には、かつて大蛇が住んでいたという。周辺で採取される蛇骨石 (灰沸石) は独鈷山の岩石に含まれる鉱物で、色と形がヘビの骨に似ていることからこの名がある。 「小泉小太郎」とは、大蛇を母とする大柄な男の子で、産川 (鞍が淵) は小太郎が産み落とされた場所。この伝説は、大蛇は水の神であり、産川の源である独鈷山が水神として崇められていたことをうかがわせる。小泉小太郎伝説は、松谷みよ子の「竜の子太郎」のモデルとなった。	
20	せんだだ ひやくはって 千駄焚き・百八手	未指定 (無形民 俗文化 財)	日照りの年に、山頂やため池の土手で、松明を点したり、藁の束などに火をつけ、「雨降らせタンマイナ」と唱える雨乞いの習俗である。祈りの方法は集落やため池ごとに、若干の違いがある。	
21	なら おせきざうおおば 奈良尾石造大姥 ざざう 坐像	市彫刻	大旱魃の際に、富士嶽で雨乞いをしたところ、忽ちのうちに雨が降ったので、御礼として、寛正 7 年 (1466) に造られたものという。その後、「祈りのかたち」は、この石像に願掛けをした千駄焚きや、石像を池の中に放り込むなどに変化した。祈りの言葉はここでも「雨降らせタンマイナ」だ。 怖い顔に反して「大姥さま」と親しみを込めて	



			呼ばれる像は、写実的で迫力を感じる見事な石像である。	
22	ほやぎおんさい 保野の祇園祭	市指定無形民俗文化財	<p>保野の集落は、中世には三斎市が立った塩田平の経済を支えた場所として知られる。保野塩野神社の祇園祭は、大凶作でまつりを休んだところ、疫病が大流行したため、その後は凶作でも休まずに続けてきた。</p> <p>仮宮の市神に移られたお旅所前と、翌日午後には本社に帰られた広庭で、早乙女の揃い姿で踊るささら子の踊りと天狗と雄獅子2体、雌獅子1体による獅子踊りが舞われる。</p> <p>凶作が行事の存続に関与した事例として注目されるまつりだ。</p>	
23	しなのこくぶんじあと 信濃国分寺跡	国史跡	<p>天平 13 (741) 年の「国分寺建立の詔」により、信濃国分寺は上田に造られることとなり、770 年頃には伽藍が整備されたと推定される。寺伝には、承平 8 (938) 年の平将門と平貞盛の戦いの際に兵火で焼失したとある。</p> <p>昭和 38 (1963) 年から 46 年に行われた発掘調査では、全国的にも稀な僧寺と尼寺が並ぶ伽藍配置と瓦、什器などの遺物が検出されるとともに、10 世紀頃の衰退の痕跡をも確認するなど、大きな成果を残した。この結果を元に史跡公園として整備された。</p> <p>寺域の東北隅の高台に鎮座する国分神社が、レイラインの起点となる。</p>	
24	しなのこくぶんじほんどう 信濃国分寺本堂	長野県宝	<p>天台宗の寺院で、本堂は薬師堂と呼ばれている。現在の信濃国分寺の境内は、天平の伽藍の北側の一段高い場所に、かつての僧寺と主軸線を合わせて整備されている。</p> <p>万延元 (1860) 年に竣工し、彫工は地元上沢村の竹内八十吉であり、龍や鳳凰の彫刻が見事である。</p>	
25	しなのこくぶんじ 信濃国分寺 さんじゅうのとう 三重塔	国重文	<p>寺伝では、建久 8 (1197) 年に源頼朝が善光寺参詣の帰途、寺の衰退を憂い、塔の復興を命じたという。建築様式から、室町時代に建立されたものと推定され、「和様」の外観は堂々と落ち着いた雰囲気呈している。</p> <p>第一層の大日如来が安置されている仏壇の鏡天井を囲む「如意頭文」は「禅宗様」の建物で用いられるもので、一層の内部は赤や緑の顔</p>	

			<p>料で、鮮やかに塗られていた。</p> <p>別所温泉の安楽寺八角三重塔とともに大日如来が安置されたふたつの塔は、レイラインの発着点を示す象徴とされたのかもしれない。</p>	
26	<p>しなのこくぶんじせきぞう 信濃国分寺石造 たほうとう 多宝塔</p>	市指定	<p>高さ 152 cm と常楽寺のものに比べるとやや小振りであるが、各部の様式・手法などから鎌倉期の多宝塔とされる。常楽寺のものがレイラインの終着点に置かれた塔だとすると、こちらは起点とされた塔なのかもしれない。</p> <p>屋根や塔身にある窪みは堅い石で叩いて粉にして飲むと病気が治るとか、お守りにすると良いという信仰の痕跡とみられる。</p>	
27	<p>ごずてんのうきいもん 牛頭天王祭文</p>	市指定	<p>信濃国分寺八日堂縁日（毎年 1 月 8 日）で頒布される「蘇民将来符」のいわれが記されている。この「祭文」の写しは全国で 4 通確認されているが、文明 12 (1480) 年に書写された国分寺のものが最古と判明した。</p> <p>牛頭天王は薬師如来が姿を現したものとされ、厄病除けの神として信仰され、やがて息災延命、七難即滅などの諸々の御利益が付け加わりながら信仰されてきた。</p>	
28	<p>うえだしようかどう 上田市八日堂の そみんしょうらいふはんぷ 蘇民将来符頒布 しゅうぞく 習俗</p>	<p>国選択無 形 民俗文化 財</p>	<p>「蘇民将来符」は厄除けのお守りで、家の戸口に掛けたり、神棚に供えられる。泥柳（ドロヤナギ）の木を手彫りした六角錐形の護符だ。</p> <p>室町時代から制作されてきたといわれ、門前に家を構える人たちで作る「蘇民講」が重要な役割を果たしている。まず、師走の朔日に寺に集まり、木材から護符を「蘇民包丁」で切り出す「蘇民切り」を行う。</p> <p>寺で頒げる護符には、住職が大福・長者・蘇民・将来・子孫・人也の文字と魔除けの紋様を、墨と朱で六面に交互に描く。また、蘇民講の面々は、文字とともに、家それぞれにオリジナルの七福神の絵姿を描いた護符を作って頒布する。</p> <p>蘇民将来信仰は全国に見られるが、木製の護符を分けるところは少なく、蘇民講と寺の制作・頒布過程が他に見られない行事である。</p>	
29	<p>ようかどうえんにちず 八日堂縁日図</p>	市指定	<p>描かれている信濃国分寺本堂の形状等から、江戸時代中期前半に描かれたものと推定され、写実的であり、当時の参詣風景等が分かる風俗史料として貴重である。</p>	

			この図からは「蘇民将来符」が頒ける姿や、農業に必要な種子や農具、生活必需品、浮世絵等の嗜好品が商われている様子がうかがえ、当時の人々の暮らしと祈りの一端が垣間見える。	
30	どろみや 泥宮	未指定 (建造物)	<p>泥宮は字の如く「大地(泥)」を御神体とし、生島足島神社が創建された時に、遺霊をここに残したという。「泥宮」という呼称は寛政 2 (1790) 年以降とされ、それまでは「諏訪大明神」であった。</p> <p>かつては生島足島神社の西鳥居とまっすぐな道で繋がっていたといい、御神体を同じくするこのふたつの神社は、深い関係があることを示す。</p> <p>神社はレイラインを構成する、聖地のひとつとして親しまれている。</p>	
31	いくしまたるしまじんじゃ 生島足島神社 ほんでんないでん 本殿内殿	県宝建造物	<p>平安初期にまとめられた「延喜式」に載る古社で、生島大神と足島大神を祭神とする。御神体は「大地」であり、日本列島の真ん中に鎮座する神だ。</p> <p>寛政 11 (1799) 年に生島足島神社と社名を改めており、中世以降には「下之郷大明神」「諏訪法性大明神」などと呼ばれ、武田信玄や真田氏、歴代上田藩主の手厚い加護を受けた。</p> <p>生島大神と足島大神を祀る神社は全国的にも珍しく、近畿地方を中心に数社しかなく、東日本では皇居内宮中三殿とこのみである。</p> <p>太陽が夏至には東の鳥居の真ん中から上がり、冬至には西の鳥居の真ん中に沈むよう、鳥居が太陽の至点と一致するように配置されており、まさに「太陽」と「大地」を結ぶ神社だ。</p> <p>境内には夫婦櫓と呼ばれる樹齢 800 年を超えると推定される大木があり、良縁子宝等が祈願される。</p>	
32	いくしまたるしまじんじゃ 生島足島神社 せつしやすわしやほんでん 撰社諏訪社本殿	市指定	<p>棟札から、慶長 15 (1610) 年に藩主・真田信之が建てたことが判明している。諏訪神を祭神とし、雨神や農耕神ともされ、神格が龍や蛇、神使は蛇とされる。ここでは蛙が禁忌の動物であり、本殿との間にある神池では毎年正月の 1 月 15 日に蛙狩神事が行われる。境内には大蛇が住んでいて、神池には蛙はいないとされる。な</p>	

			お、神池は日によって色が違って見えるという。	
33	いくしまたるしまじんじゃ 生島足島神社 もんじよ 文書	国重文	<p>武田信玄武将の起請文（83 通）ほか信玄願文、真田信幸寄進状など 11 通、合計 94 通からなる古文書群。</p> <p>信玄が配下の武将に、謀叛しないことを誓わせた起請文や、越後の上杉謙信との戦いにあたって勝利を祈願した願文からは、信濃攻略を果たした信玄が、上杉との本格決戦に向けて神の加護を得ようとした心中を察することができる史料だ。</p>	
34	ちようふくじどうぞうぼさつ 長福寺銅造菩薩 りゅうぞう 立像	国重文	<p>長福寺「信州夢殿」の本尊として安置されている。アルカイクスマイルを特徴とする、像高 36.7 cm の小金銅仏で、7 世紀後半の白鳳時代の作品と考えられる。</p> <p>もとは上高井郡小布施町の旧家に伝わるものだったが、昭和 13 (1938) 年に長福寺に移された。</p>	
35	べっしょせん てっとうしせつ 別所線の鉄道施設	未指定 (建造物)	<p>蚕都上田を支えた鉄道網のうち、唯一現役なのが別所線。上田から別所温泉に至るこの路線は大正 10 年 (1921) に開通した。</p> <p>電車が上田駅を発つと間もなく真っ赤な鉄橋を渡って千曲川を渡る。この千曲川橋梁は、大正 13 年 (1924) の建設で、橋長は 224m。橋桁はプラットトラス 5 連からなり、一番端の斜材 (コリションストラット) を持っているのが特徴である。また、中塩田駅や別所温泉駅など、駅舎に近代の趣きを残す建物が多いことも特徴である。</p> <p>別所線の上田駅から別所温泉駅まで 11.6km の軌道は、下之郷駅から大きく西に曲がり、終点の別所温泉駅までの軌道は、まるでレイラインに沿って夫神岳に向かっているように見える。</p>	

36	しおだいら 塩田平のため池群		未指定 (史跡)	<p>雨の少ない塩田平での稲作において欠かすことのできないのが各地に点在するため池群である。古代から築造は進められてきたと考えられるが、仙石氏統治時代(1622年～1706年)に最も築造が行われ、最盛期は300以上もあったとされており、上田随一の穀倉地帯を支えた。</p> <p>小規模なため池を含めた現在の総数は明らかではないが、塩田地域で名称や貯水量等が把握されているものだけでも41を数える。</p> <p>築造に伴う人柱や、水神としての河童の伝説が残り、雨乞い行事「百八手」が行われるなど、人びとの努力と信仰が現れる場所である。</p>
	①	夫婦池		慶長16年(1611)築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。
	②	ひょうたん 瓢箪池		宝永6年(1709)築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。灌漑用水としての役割のほか、マダラヤンマ(市指定天然記念物)等の貴重な動植物が生息し、市民がくつろぐ広場としての役割も担う。
	③	むかえはらしも 迎原下池		正徳元年(1711)築造。下之郷地区へ灌漑を行う。
	④	むかえはらかみ 迎原上池		元禄3年(1690)築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。
	⑤	宮原上池		正徳元年(1711)築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。
	⑥	鳥居上池		寛永7年(1630)築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。生島足島神社の鳥居が付近にあったことから名づけられたと考えられる。
	⑦	浅間池		正徳元年(1771)築造(当時の名称は大吹池)。谷池。下之郷地区へ灌漑を行う。巨人「デラボッチ」の伝承が伝わる。
	⑧	いもりざわお 居守沢大池		寛永7年(1630)築造。皿池。富士山地区へ灌漑を行う。
	⑨	中池		寛永2年(1625)築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。

⑩	下之郷新池	寛永 18 年(1641)築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。
⑪	清水池	文化元年(1818)に修復の記録が残る。皿池。古安曾地区等へ灌漑を行う。かつてはスケートリンクや鯉の養殖池として利用された。
⑫	久保池	天正 4 年(1576)築造。皿池。富士山地区へ灌漑を行う。41 のため池の中では最古とされる。かつてはスケートリンクや鯉の養殖池として利用された。
⑬	北ノ入池	寛文 3 年(1663)築造。皿池。富士山地区へ灌漑を行う。沢山池に次ぐ規模で、東塩田地区への灌漑を行う。コウノトリが飛来したこともあるなど、貴重な動植物が生息する。かつては鯉の養殖が行われた。また、干ばつ時には千駄焚が行われた。
⑭	砂原池	正徳 4 年(1714)築造。谷池。富士山地区への灌漑を行う。マダラヤンマ(市指定天然記念物)等の貴重な動植物が生息している。かつては干ばつ時に千駄焚が行われた。
⑮	水沢池	正保 4 年(1647)築造(当時の名称は唐沢池)。谷池。富士山地区への灌漑を行う。「唐」が「空」に通じ、縁起が悪いことから水沢池に変更されたという伝承が伝わる。住民が水不足に対して非常に恐れていたことを表す伝承である。かつては干ばつ時に千駄焚が行われた。
⑯	来光寺池 らいこうじ	元和 8 年(1622)築造。皿池。古安曾地区等へ灌漑を行う。干ばつ時に石造の「大姥様」を池に沈め、怒らせて降雨を願った伝承が伝わる。現在でも大姥様は地域で大切に守られている。また、百八手も行われていた。
⑰	手洗池	承応 3 年(1654)築造。谷池。古安曾地区等へ灌漑を行う。池の名は弘法大師空海や木曾義仲の家臣手塚太郎金刺光盛が池で手を清めたことに由来するとの伝承が伝わる。築造時には上田藩内から人が集められたと伝わる。

⑱	平井寺池	昭和 24 年(1949)築造。谷池。古安曾地区への灌漑を行う。塩田平では最も新しいため池で、現代まで塩田平の住民が水の確保のため、ため池の築造を行っていたことを表している。
⑲	倉保根池 くらほね	正保 2 年(1645)築造。皿池。本郷地区等への灌漑を行う。かつては鯉の養殖が盛んに行われた。
⑳	上原池 うわはら	寛永 14 年(1637)増築の記録があり、それ以前からあったとされる。皿池。本郷地区等への灌漑を行う。村上義清に関わる伝承が伝わる。
㉑	小島大池	元和 8 年(1622)の史料で名が確認でき、それ以前からあったとされる。皿池。小島地区へ灌漑を行う。徳川綱吉将軍時代にイノシシが溺死したという「小島大池のイノシシ騒動」が伝わる。
㉒	加古池 かこ	元禄 17 年(1704)築造。皿池。保野地区等への灌漑を行う。毎年蓮が咲くためかつては蓮根が地域の貴重な食料とされていた。現在でもお盆の「花市」用に購入する業者が数軒ある。
㉓	塩吹池	元禄 15 年(1702)改修の記録があり、それ以前からあったとされる。谷池。保野地区等への灌漑を行う。かつては保野塩野神社の手洗い池として利用された。晴天が 2~3 日続くと地面に塩が吹き出したことにより名付けられた。かつては干ばつ時に百八手が行われた。
㉔	女池	正保元年(1644)築造。皿池。男池と隣接しており、一部堤を共有している。産川より取水し、五加地区等へ灌漑を行う。
㉕	男池	慶安 2 年(1649)築造。皿池。女池と隣接しており、男池の方が一回り大きく、一部堤を共有している。産川より取水し五加地区等へ灌漑を行う。
㉖	五加前池	元和 8 年(1622)の史料で名が確認でき、それ以前からあったとされる。皿池。五加地区へ灌漑を行う。かつては鯉の養殖がおこなわれた。

⑳	共有池	元和 8 年(1622)築造。皿池。舞田地区等へ灌漑を行う。その形から「ハート池」とも呼ばれる。貴重な動植物が生息し、かつては鯉の養殖がおこなわれた。
㉑	上平池	元和 8 年(1622)築造。谷池。舞田地区へ灌漑を行う。かつては鯉の養殖がおこなわれた。
㉒	中野前池	寛永 7 年(1630)築造。皿池。中野地区等へ灌漑を行う。かつては干ばつ時に百八手が行われた。
㉓	甲田池	元和 8 年(1622)の史料で名が確認でき、それ以前からあったとされる。皿池。十人地区等へ灌漑を行う。かつては干ばつ時に百八手が行われた。カップ伝説も伝わる。
㉔	上窪池	正保 2 年(1645)改修の記録があり、それ以前からあったとされる。皿池。本郷地区等への灌漑を行う。改修前は泥池と呼ばれ、池の西側には泥宮が鎮座する。かつて塩田地域の多くのため池で行われた鯉の養殖発祥の地である。干ばつ時には百八手も行われた。
㉕	荒池	安永 10 年(1781)増築の記録があり、それ以前からあったとされる。皿池。十人地区等へ灌漑を行う。かつては鯉の養殖が行われていた。
㉖	塩野池	宝永元年(1704)築造。谷池。前山地区へ灌漑を行う。前山塩野神社の境内を流れる塩野川を水源としている。築造時には前山三頭獅子舞が奉納された。かつては干ばつ時に百八手が行われた。
㉗	沢山池	昭和 13 年(1938)築造で、塩田平最大のため池。谷池。産川を水源とし、鞍が淵のすぐ上流に位置する。産川流域の農業用水確保のほか、水害対策としても大きな役割を負っている。



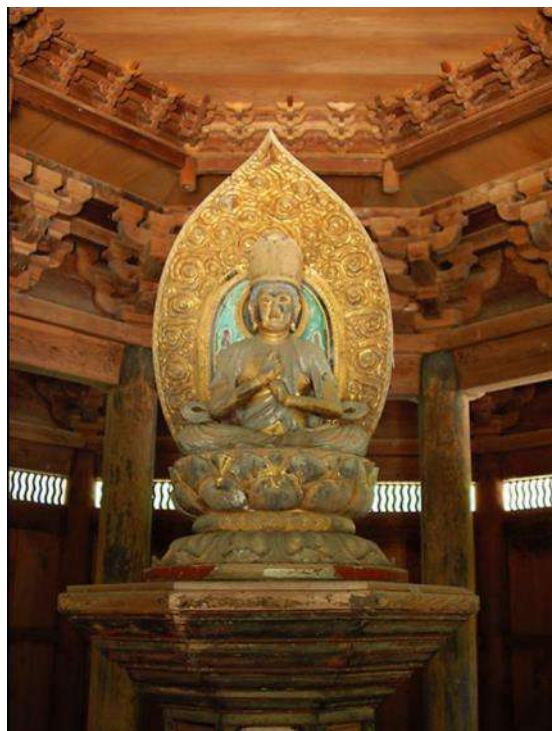
③⑤	山田池	元和 8 年(1622)の史料で名が確認でき、それ以前からあったとされる。谷池。八木沢地区等への灌漑を行う。江戸時代の修築時に上田藩主へ設計図を提出したところ、「大きな池にする と堤の決壊時に上田城やまちに甚大な被害が及ぶため 1 尺堤を低くするように」との指示があったとの伝承が伝わる。別所温泉から流れる湯川を水源とし、山田地区等へ灌漑を行う。かつてはスケート場や鯉の養殖池として利用された。
③⑥	山田新池	寛延 3 年(1750)築造。谷池。山田地区等へ灌漑を行う。
③⑦	舌喰池	元和 8 年(1622)改修の記録があり、それ以前からあったとされる。谷池。手塚地区へ灌漑を行う。池の築造時に人柱となった娘が舌をかみ身を投げた伝承が伝わり、池の名ともなっている。かつては鯉の養殖が行われていた。
③⑧	不動池	文政 12 年(1829)築造。谷池。「戌の満水」時に埋没した不動明王の仏像が築造時に掘り出されたことからその名がついたと伝わる。手塚地区へ灌漑を行う。かつては鯉の養殖が行われていた。
③⑨	竜王下池	正徳元年(1711)築造。谷池。灌漑面積は 7ha、満水面積は約 1,220 m <sup>2</sup> 。水をつかさどる女神である「弥都波能売神」を祀る竜王社が脇に建つ竜王湧水を水源としていることからその名がついたと考えられる。手塚地区へ灌漑を行う。
④⑩	かみいち 上一池	築造等の記録は残っていないが、竜王湧水を水源とし、手塚地区へ灌漑を行う。谷池。
④⑪	幕宮池	正徳 5 年(1715)築造。谷池。別所温泉地区等へ灌漑を行う。現在は水辺公園として整備され、市民・観光客の憩いの場として利用されている。

構成文化財の写真一覧

1 安楽寺八角三重塔



(塔内 大日如来坐像)



2 木造惟仙和尚坐像・木造恵仁和尚坐像



3 常楽寺本堂



4 常楽寺石造多宝塔



5 北向観音堂



7 愛染カツラ



6 善光寺地震絵馬



8 舞田の石造五輪塔



9 前山寺三重塔



11 西光寺阿弥陀堂



10 ちがい石とその産地



12 中禅寺薬師堂



13 中禅寺木造薬師如来坐像

14 中禅寺木造金剛力士像



15 前山塩野神社本殿及び拝殿



16 法住寺虚空蔵堂 附 厨子



## 17 別所温泉の岳の幟行事



## 18 別所神社本殿



本殿の背後に鎮座する「本朝縁結大神」祠



19 鞍が淵と蛇骨石



鞍が淵



蛇骨石



20 千駄焚き・百八手



21 奈良尾石造大婆坐像



22 保野の祇園祭



23 信濃国分寺跡



26 信濃国分寺  
石造多宝塔



24 信濃国分寺本堂



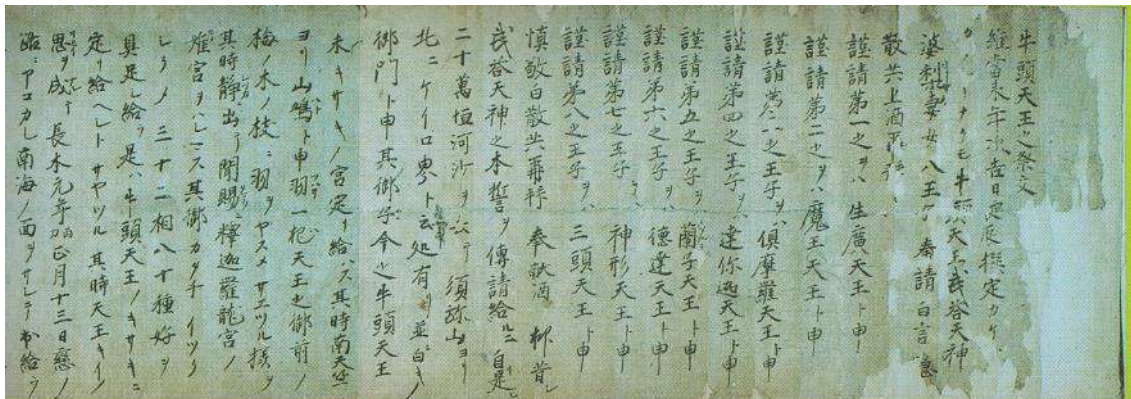
25 信濃国分寺三重塔



(塔内 大日如来坐像)



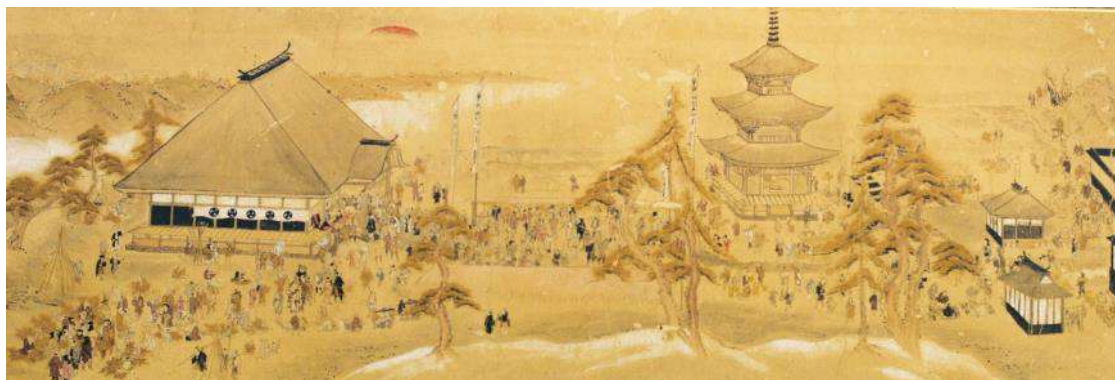
27 牛頭天王祭文 (冒頭部分)



28 上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗



## 29 八日堂縁日図



本堂前で 蘇民将来符を頒布する光景

## 30 泥宮



## 生島足島神社



31 生島足島神社本殿内殿



32 生島足島神社摂社諏訪社



33 生島足島神社文書



34 長福寺銅造菩薩立像



35 別所線の鉄道施設



36 塩田平のため池群



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像(ビジョン)

上田の暮らしや産業には、高い晴天率を誇る穏やかな気候が大きく影響している。古代に信濃国分寺が置かれ、鎌倉時代には北条氏の一派が塩田に居を構えたことは、こうした気候条件が一番の理由だったと考えられている。近代になって養蚕製糸業が盛んになり「蚕都」と呼ばれるほどの活況をみせたこと、また、精密機械部品等の製造工場が上田に進出したことも、雨が少ない気候が品質の良い製品を造るために最適だったことが理由である。このような上田の風土は将来にわたって大きく変化することなく、これからもそのメリットを享受できることは、文化財の活用を推進していく上で、大きな財産である。

上田は内陸にある周りを山々に囲まれた盆地であり、こうした地形が「雨が少なく、気温の日較差が大きい」上田の気候を特徴づけ、また、上田盆地はいたるところに扇状地が発達していることもあり、特にブドウやリンゴといった果物の栽培に適する地域として知られている。一方、水はけの良い扇状地であることから、古くからため池が造られ、田んぼの水を溜めて温めるといった機能だけでなく、山裾で貴重な水「伏流水」を無駄なく集めるという役割を担ってきた。人びとは命をつなぐ貴重な農産物や水をもたらす山に「神」を崇め、畏敬の念を持って、その加護を民話や伝説として語り継いできた。

こうした風土の中で保全されてきた文化財のいくつかは、国宝や重要文化財として保護されているが、活用という点からすると、決して十分とは言えないのが現状である。日本遺産を通じて、こうした文化財の価値や魅力を広く内外に発信し、これまでのように「上田城」や「真田一族」に頼り切りの施策ではなく、新たな文化財の魅力があふれる上田のまちづくりを目指す。そして、文化財を地域の経済的な活性化につながる存在としての新たな価値づけを行って、所有者や市民がこれらの価値を認識し、自主的な保護と活用の取組みへの動機づけとなるようにしていきたい。

「龍とともに生きるまち」としての未来

塩田平では故黒坂周平氏の先導のもと、小中学校の教員や地域住民がメンバーとなって、「塩田平文化財研究所」が組織され、その活発な活動の歴史は既に50年近くを経過している。また、ため池をカヌーや雨乞い行事などの身近な体験の場所として保全していこうとする取り組みや、ため池に生息するマダラヤンマの保護とパトロールなどといった、住民レベルによる自発的な活動が盛んな地域である。また、最近では県外からの移住者が発起人となり、別所温泉FC(ファンクラブ)を立ち上げるなど、地域の魅力を再発見し、発信していこうとする活動が既に軌道に乗っていることは、今後の事業推進の上で心強い要素である。

また、寺社が多く、住民と僧侶・神官との相互支援も活発な地域であり、特に雨乞い行事においては、神仏習合の日本らしい宗教観のなか、「水神に僧侶が祈願する」ことが一般的に行われてきた。こうした風土は、観光で訪れる人びとにとっても、山々に囲まれた自然が保全されている環境と相まって、「昔ながらの」または「懐かしい」景色として受け入れられる可能性があり、こうした塩田平のくらしや業を体験したり、僧侶と礼所巡りをしたりすることで、「特別な場所」としての魅力を生かせるものと考えられる。

こうした住民レベルの取組みは、地域に今後の日本遺産魅力発信事業を牽引していく役割が期待できる。地域活性化計画として別紙に掲げた取組みの中で、こうした活動を支援するとともに、まずは住民への魅力発信を重点的に実施し、「自らが住まう塩田平」の魅力を理解し、国内外に発信することができる地域づくり、人づくりを目指す。

今回のテーマに掲げた「太陽と大地の聖地」及び「レイライン」というフレーズは、既存の旅行商品の中でも使用されているものであるが、「龍とともに生きる」という部分は今回のオリジナルである。その意図するところは、岳の職をはじめとした雨乞い行事や伝説に登場する「龍」はもちろんのこと、上田電鉄別所線の上田駅から別所温泉駅までの軌道が、上空から見た時に「龍」の姿を想像でき、設置から既に100年近くを経過するローカル鉄道が、今まで、そしてこれからも地域住民そして観光客の足として親しまれ、個々の文化財やこれらを活用した取組みを繋ぐものとして期待を込めたものである。

「龍」により新たな命を吹き込まれた文化財は、「龍とともに生きるまち」を活性化し、住民はもちろんのこと、観光客を魅了する「上田の宝」へと変身することだろう。文化財の活用により、地域に誇りと愛着をもつ住民が増え、人を集め、お金の儲かる資産としての文化財の保護活用意識の醸成に繋げていきたい。

別所は昔ながらの温泉街であるが、最近出店したいいくつかのカフェは、その新しい雰囲気や住民を誘い、そして、旅人が集う場所となっている。観光でここを訪れた人々は「人懐こい」住民との会話に、きっと何とも言えない心地よさを感じるだろう。まさにこれが、別所が「信州の学海」として高僧や学僧を集め、活力を得る場所になった理由のひとつでもある。「龍とともに生きるまち」はこれから住民の人柄が一番の魅力となつて、大勢の人たちを上田へと再び足を運ばせることだろう。

(2) 地域活性化のための取組の概要

新たな観光周遊ルートの整備

構成文化財を巡るルートと関連施設の整備

構成文化財とストーリーに関連する物件は、塩田平・別所温泉一帯を中心に所在しており、この地域にガイダンス施設を設けて、旅人がストーリーの理解と周遊の準備ができる拠点とする。ただし、JR北陸新幹線上田駅あるいは上信越自動車道上田管平ICからアクセスする場合には、どうしても移動距離と時間を要するため、ビジターセンター機能を有する周遊拠点をそれぞれの最寄りに整備し、ガイダンス施設以外から始める周遊でも、快適で安心な旅となるよう、利便性の向上及び施設整備に努める。また、案内板の設置とQRコード読み込みによるインバウンド対応の音声ガイドを整備するなど、環境整備を進める。

有償ガイドの育成と事業化

構成文化財及びストーリーに関連する物件については、その魅力や面白さを余すところなく伝える伝道師が必要であり、ガイダンス施設を有償ガイドの拠点とし、旅人のニーズに応えることができる人材を育成する。そして、3年間の育成期間終了後を見越して、自主運営を可能とする有償ガイド団体の結成を目指す。

身近にある観光資源の価値の認識と活用

上田盆地を囲む山々を背景に寺社やため池、ローカル鉄道のシルエットが調和する景観は、都会ではなかなか感じることができない山色の移ろいと相まって、四季折々の異なる姿を見せるとともに、湧水や温泉、新緑や紅葉、そしてジビエをはじめとした山菜、きのこ、木の実などの山の恵みを私たちに提供してくれる。こうした山村ならではの資源を構成文化財と組み合わせ活用する。水田での米作りやワイン用ぶどうの収穫、温泉での健康増進を目指したヘルスツーリズムなどの体験事業、上田の「なないろ」農産物の魅力発信イベントやこれらを活用した飲食産業等について、民間の参入を念頭に置いた取組みを推進し、継続して魅力発信ができる体制づくりを進める。



### 情報発信と周知啓発の取り組み

ホームページや動画製作等による情報発信

ストーリーや構成文化財の紹介、マップ等を備えた多言語に対応したホームページや動画を製作し、外国人観光客の周遊を見据えた情報発信を行う。特に仏教文化財に関心が高い東南アジアからのインバウンド増加を目指す。

### 観光プロモーション事業の実施

大都市（東京・名古屋・大阪等）で観光プロモーション事業を実施し、地域の魅力等についてダイレクトに伝える。また、「上田城千本桜まつり」等でPRブースを出展し、来場者が上田を再訪する旅の動機づけを行う。

### 外国籍住民と協働で行う情報発信

市内在住の外国籍住民（小中学校ALT、信州大学繊維学部留学生等）と協働し、魅力発信のためにSNSでのPR及び拡散に取り組み。また、「日本遺産コンシェルジュ（仮）」を学生らから任命して、インバウンド対応や、情報発信のリーダーとしての積極的な活動を担うことができる人材として育成する。

### 市民向けの周知啓発事業の実施

市外への周知のみでなく、市民がストーリーと身近にある構成文化財の魅力や価値を十分に理解し、協議会とともに発信していくことが地域の活性化への原動力となることから、シンポジウムや図書館及び博物館と連携した市民講座等を開催するなどして、地域文化に対する誇りと愛着を醸成する。

### 旅行商品の開発

周遊ルートを含めた旅行商品を開発して、国内や海外、特に映画好きな皆さんをターゲットとして誘客を図る。

## (3) 自立的・継続的な取組

- ・ここで組織する協議会については、補助事業終了後は自治体等からの一定の支援のもとで、民間主体の事業として継続及び発展を目指す。
- ・一定の活動実績を有する有償ガイド団体を協議会の幹事として任命し、観光客の案内事業や市内に設置予定の拠点施設（ビジターセンター含む）等での収益確保に繋がる環境整備や仕組みづくりを実施していく。
- ・関係企業が自主的な運営ができるよう、収益に繋がるイベント等の計画・開催を積極的に進める。
- ・遊休農地の活用については、官民連携の上で新たな魅力の創出にも取組み、民間主体の産業として補助事業終了後も活用事業が運営できるよう、段階的な支援を検討する。
- ・テーマに関連して自主運営可能な団体を随時募集し、その育成や活動を支援し、補助事業終了後の運営を見越した組織づくりを進める。
- ・市内の大学生等にも活動に参加してもらい、魅力発信や地域づくりに関与していくなかで、将来の事業の担い手づくりを積極的に進める。
- ・市内在住の外国人等を「日本遺産コンシェルジュ（仮）」として任命し、海外への魅力発信に取り組みってもらうことを計画する。
- ・塩田平の資産は地域住民には当たり前の景色になってしまっているが、地域のアイデンティティとして誇れるものであることを周知する事業を計画し、最初の一年間は地元に向けた発信を積極的に進め、地域の活性化に繋がる気運の醸成に努める。

## (4) 実施体制

- ・協議会の名称  
塩田平魅力発信推進協議会（仮）  
（事務局）生涯学習・文化財課（契約・出納事務等）、観光課（事業推進事務等）
- ・構成団体  
【自治体】上田市  
【文化財関係】塩田平文化財保護協会  
【地域関係】上田市塩田地域協議会、上田商工会議所、信州上小森林組合、上小漁業協同組合、（一財）上田市地域振興事業団  
【観光関係】（一社）信州上田観光協会、別所温泉観光協会、別所温泉旅館組合、NPO法人犀の角  
【交通関係】上田電鉄（株）、東日本旅客鉄道（株）上田駅、しなの鉄道（株）、千曲バス（株）、上田バス（株）、（有）信州観光バス、長野県タクシー協会上小支部、別所線電車存続期成同盟会  
【飲食関係】上田菓子工業組合、上田酒造協会  
【コンシェルジュ関係】公立大学法人長野大学、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校、MANABI外語学院、専門学校長野ビジネス外語カレッジ、まちなかキャンパス、上田観光ボランティアの会、塩田平札所めぐり霊場会、ゲートウェイ信州上田城下町、EGG（English Guide Group）
- ・運営体制  
協議会内に幹事会と5つの部会を設置し、事業内容の検討・実施・進捗確認等を行う。  
【幹事会】上田市（生涯学習・文化財課、観光課）、（一社）信州上田観光協会、上田商工会議所、別所温泉観光協会、別所温泉旅館組合、別所線電車存続期成同盟会、  
【周遊ルート開発部会】上田市（生涯学習・文化財課、観光課）ほか  
【イベント部会】上田市（観光課、各地域自治センター産業観光部局、農産物マーケティング推進室）ほか  
【情報発信部会】上田市（生涯学習・文化財課、観光課、広報シティプロモーション課）ほか  
【グルメ開発部会】上田市（商工課、農産物マーケティング推進室、各地域自治センター産業観光部局、）ほか  
【コンシェルジュ育成部会】上田市（生涯学習・文化財課、観光課）ほか

# 「日本遺産」を活用した地域の活性化



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果		定量的評価： 別紙 のとおり
期待される効果：	日本遺産認定により、塩田平に見られる四季折々の「祈りのかたち」、特に暮らしに密着した未指定の文化財（民俗行事・石造物・食材等）を活用できる機会を得られることから、体験型の観光素材とすることで、地域の活性化に不可欠な人材と収益を産み出すシステムを構築できる。 また、身近な文化財に対する住民の関心が高まり、その価値を改めて認識することによって、ふるさと上田への誇りと愛着が増し、文化財の活用が収益をもたらすという構図を広く認知してもらうことで、長い将来にわたって文化財の保護と保存に繋がるものとする。	
(6) 日本遺産魅力発信推進事業		別紙 のとおり
補助金額：	令和2年度： 24,000千円	令和3年度： 23,000千円      令和4年度： 13,000千円
(7) その他事業		別紙 のとおり

## （5）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標	観光客入込み数
具体的な指標	上田市内観光地の延べ利用者数（長野県公表値）
関連事業	(6) 、 、 、 、 、 、 、 、 、 (7) 、 、 、
目標値	令和 2 年度 470 万人 令和 7 年度 600 万人
設定根拠	上田市総合計画に記載の目標設定を準用(4%増/年)するとともに、令和元年までの実績数値や状況を勘案等し計上した。
設定目標	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標	日本遺産を活用した取組数（協議会による取組を除く）
具体的な指標	日本遺産ロゴマークの使用許可数（「手引き」1の(2)の による（所有者等を除く））
関連事業	(6) 、 、 、 (7) 、 、 、
目標値	令和 2 年度 3 団体 令和 7 年度 33 団体
設定根拠	初年度は3団体を見込み、2年目以降は毎年6団体程度の増加を見込んだ5年後の累計数値とした。
設定目標	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標	日本遺産への協力者数
具体的な指標	「塩田平日本遺産応援隊（仮）」のボランティア登録者数
関連事業	(6) 、 、 、 (7) 、 、 、 、
目標値	令和 2 年度 330 人 令和 7 年度 1,122 人
設定根拠	構成文化財ごとにボランティア登録して活動する市民等の実績数。初年度は構成文化財数22件×登録者数15人を見込み、2年目以降は構成文化財数22件×登録者数5人×6年間とし、6年間の登録者数を累計して算出した。
設定目標	その他
計画評価指標	その他
具体的な指標	
関連事業	
目標値	平成 年度 平成 年度
設定根拠	

黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

目標 ～ を複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

## (6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業	情報発信及び誘客環境の整備に向けた調査研究事業		
事業区分	調査研究	事業期間	令和2年度～令和2年度
事業費	令和2年度：3,000千円	令和3年度：0千円	令和4年度：0千円
事業概要	ストーリーや構成文化財の魅力発信のため、ターゲットとする世代と興味関心について調査研究をし、周遊のモデルコースを設定し、誘客の環境の整備を図るためのデータとする。		
具体的な指標	上田市内観光地の延べ利用者数(長野県公表値)		
目標値	令和2年度	470万人	令和7年度
事業	ビジターセンター整備事業		
事業区分	情報発信	事業期間	令和3年度～令和3年度
事業費	令和2年度：0千円	令和3年度：6,000千円	令和4年度：0千円
事業概要	既存の公共施設を活用し、観光客が市内を巡る際のビジターセンター(拠点)を整備する。		
具体的な指標	各ビジターセンターの累計利用者数		
目標値	令和2年度	0万人	令和7年度
事業	ホームページの作成とSNSによる情報拡散		
事業区分	情報発信	事業期間	令和2年度～令和2年度
事業費	令和2年度：1,500千円	令和3年度：0千円	令和4年度：0千円
事業概要	国内外へ向けた情報発信のため、ホームページを作成して閲覧に供するとともに、SNSのアカウントを取得して情報の拡散を図る。		
具体的な指標	SNS上の情報発信の「いいね」の数		
目標値	令和2年度	2,000件	令和7年度
事業	プロモーション動画の制作		
事業区分	情報発信	事業期間	令和2年度～令和2年度
事業費	令和2年度：5,000千円	令和3年度：0千円	令和4年度：0千円
事業概要	ホームページや市内公共施設、首都圏等関係施設等で放映するPR映像を使用する。		
具体的な指標	ホームページ閲覧数(PV数)		
目標値	令和2年度	5,000回	令和7年度
事業	ポスター及びパンフレットの作成		
事業区分	情報発信	事業期間	令和2年度～令和3年度
事業費	令和2年度：1,000千円	令和3年度：3,000千円	令和4年度：0千円
事業概要	市内公共施設、首都圏等関係施設等で掲示、配布するポスター・パンフレットを作成する。事業で制作したホームページへのアクセス用QRコードを付す。		
具体的な指標	ホームページ閲覧数(PV数)		
目標値	令和2年度	5,000回	令和7年度

事業	日本遺産認定記念イベントの実施		
事業区分	普及啓発	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度
事業費	令和2年度： 1,500千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 0千円
事業概要	シンポジウム等とあわせた記念式典を開催する。		
具体的な指標	ホームページ閲覧数 ( P V 数 )		
目標値	令和 2 年度 5,000 回	令和 7 年度	25,000 回
事業	「太陽と大地の聖地」周遊ルート開発事業		
事業区分	普及啓発	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 1,000千円	令和3年度： 1,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要	観光協会・温泉関係団体、旅行代理店等と連携して観光ルートの開発・商品化を行う。マーケティング調査、商品企画・モニターツアー等の実施により、旅行商品としての魅力を向上させる。塩田平の「祈りのかたち」を体験するツアーを中心に、別所温泉や丸子温泉郷の湯治文化や、農産物の栽培体験、ワイナリーとの連携等による旅行商品を開発する。 初年度：テーマ「塩田平の「祈りのかたち」を見て、聞いて、体験する旅」 2年次：テーマ「塩田平を五感で楽しむ旅（農産物栽培や料理、フードフェス等と関係付け）」 3年次：テーマ「塩田平でゆかりの映画や文学作品を鑑賞する温泉旅」		
具体的な指標	日本遺産に関する旅行商品数		
目標値	令和 2 年度 3 件	令和 7 年度	15 件
事業	有償ガイド団体の育成支援		
事業区分	人材育成	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 2,000千円	令和3年度： 2,000千円	令和4年度： 2,000千円
事業概要	ガイド用テキストの作成。構成文化財の説明等に携わる人材を育成する。外国語対応が可能なガイドも想定する。		
具体的な指標	ガイド利用者数		
目標値	令和 2 年度 1,500 人	令和 7 年度	9,000 人
事業	「日本遺産コンシェルジュ」育成事業		
事業区分	人材育成	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 1,500千円	令和3年度： 1,500千円	令和4年度： 1,500千円
事業概要	市内大学等に在籍する外国人留学生に協力を依頼し、SNS等で母国に情報発信したり、母国の観光客をアテンドしたりする人材を養成する。育成のためのファムツアーの実施を計画する。		
具体的な指標	コンシェルジュによるアテンド活動の件数		
目標値	令和 2 年度 0 件	令和 7 年度	5,000 件

事業	案内板・誘導標等の設置		
事業区分	公開活用のための整備	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 1,000千円	令和3年度： 3,000千円	令和4年度： 2,000千円
事業概要	構成文化財の説明看板やルート案内のための看板等の整備を行う。QRコードを付し、欧米や中韓、東南アジアのインバウンド対応が可能なものとする。		
具体的な指標	QRコードの読み込み者数		
目標値	令和 2 年度 2,000 人	令和 7 年度	10,000 人
事業	観光プロモーション事業【PRイベント】		
事業区分	情報発信	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 1,000千円	令和3年度： 1,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要	首都圏等での観光プロモーション事業を実施し、上田市をPRし、魅力的な情報をダイレクトに伝える。		
具体的な指標	上田市内観光地の延べ利用者数（長野県公表値）		
目標値	令和 2 年度 470 万人	令和 7 年度	600 万人
事業	「上田城千本桜まつり」「上田城紅葉まつり」等における日本遺産PRブース出展		
事業区分	情報発信	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 500千円	令和3年度： 500千円	令和4年度： 500千円
事業概要	「上田城千本桜まつり」「上田城紅葉まつり」等において、日本遺産PRブースを出展し、来場者への魅力発信を図る。（出展用テント、机、装飾、のぼり旗製作等の経費）信州上田まつり実行委員会と連携。		
具体的な指標	上田市内観光地の延べ利用者数（長野県公表値）		
目標値	令和 2 年度 470 万人	令和 7 年度	600 万人
事業	「太陽と大地の聖地」特産品開発事業		
事業区分	調査研究	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 500千円	令和3年度： 500千円	令和4年度： 500千円
事業概要	観光客に提供する食品や、土産品となりうる、塩田平産の松茸、うえだみどり大根、塩田の米、大豆（ナカセンナリ、こうじいらす）、薬用人参等の素材を活用した商品開発を行う。		
具体的な指標	嗜好性調査を踏まえた商品開発数		
目標値	令和 2 年度 3 種	令和 7 年度	20 種
事業	ため池と農地の観光的活用事業		
事業区分	公開活用のための整備	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 2,000千円	令和3年度： 2,000千円	令和4年度： 2,000千円
事業概要	かつて豊作や雨を願った「祈りのかたち」を追慕しながら、農業体験を行うことで、ため池や遊休農地を観光資産として活用するとともに、農業コンシェルジュの育成を図る。		
具体的な指標	施設への入込み数		
目標値	令和 2 年度 1,000 人	令和 7 年度	6,000 人

事業	なないろ農産物マルシェ事業		
事業区分	公開活用のための整備	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 2,000千円	令和3年度： 2,000千円	令和4年度： 2,000千円
事業概要	日照時間が長く乾燥した風土が育んだ、信州上田なないろ農産物（少量多品目なものの何でも栽培できる上田の風土を喻えた造語）を販売・飲食するマルシェを開催する。		
具体的な指標	施設への入込み数		
目標値	令和 2 年度	1,500 人	令和 7 年度 9,000 人
事業	日本遺産セミナー、親子講座等の開催		
事業区分	普及啓発	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費	令和2年度： 500千円	令和3年度： 500千円	令和4年度： 500千円
事業概要	美術館や博物館、駅前図書館等と連携したセミナー等を企画・開催することで、市民の関心や認知度を高める。		
具体的な指標	セミナー等の参加者		
目標値	令和 2 年度	200 人	令和 7 年度 1,500 人

## (7) その他事業

事業	「太陽と大地の聖地」文化財の保護活用		
実施主体	上田市	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	未指定文化財の抽出と指定に向けた調査研究、保護活用計画の立案。		
事業	「上田城下町映画祭」との連携事業		
実施主体	上田市・民間団体	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	「上田城下町映画祭」において、日本遺産認定と連動したイベントの開催と誘客。		
事業	文化財建造物の保存活用と事業活性化に向けた取り組み		
実施主体	上田市・NPO法人犀の角	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	NPO法人犀の角と協働し、神社舞台等での演劇上演の活性化に向けた支援。		
事業	「文化財de文化祭」の事業活性化に向けた取り組み		
実施主体	上田市・劇場&ゲストハウス犀の角	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	劇場&ゲストハウス犀の角と協働し、事業活性化に向けた協力者の増加に向けた支援。		
事業	「太陽と大地の聖地」周遊バス及びタクシーの運行		
実施主体	上田市・民間団体	事業期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	バス事業者やタクシー事業者と連携して、周遊バス及びタクシーを運行する。		
事業	「太陽と大地の聖地」ガイドツアー		
実施主体	観光協会・ゲートウェイ信州上田城下町 ・(公財)上田地域シルバー人材センター	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	有償ガイドツアーの商品開発と運営。		
事業	JR東日本(株)と協働して取り組む周辺地域との観光連携		
実施主体	上田市・JR東日本(株)	事業期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	「大人の休日倶楽部」や「トランベール」での日本遺産PR		
事業	しなの鉄道(株)と協働して取り組む周辺地域との観光連携		
実施主体	上田市・しなの鉄道(株)	事業期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	観光列車等を関連付けた旅行商品開発とイベント開催。		
事業	上田電鉄(株)と協働して取り組む周辺地域との観光連携		
実施主体	別所線電車存続期成同盟会・上田電鉄(株)	事業期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	別所線を関連付けた旅行商品開発と駅舎でのイベント開催。		
事業	地域発 元気づくり支援金事業		
実施主体	長野県	事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 7 年度
事業概要	日本遺産を活用した地域の活性化を促進する取り組みを行う団体等を支援する。		



